

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

##### ○ 学級目標発表会

全生徒が安心して学校生活を送ることができるように「誰一人取り残されない学級を目指して」を共通テーマにして各学級が学級目標を決定し、発表会を行った。



##### ○ 地区の特別活動の日

体育祭や合唱コンクールなど学校行事に向けて、全学級が学級目標を意識した学級討論を行い、学校行事を通して「よりよい学級にするには」どのように取り組むか話し合った。



#### 【取組2】(A中学校)

##### ○ 生徒会企画「あいさつウィーク」

当該中学校の生徒だけでなく、学区の児童も対象にきずなを紡ぐために、学区の小学校で行う「あいさつウィーク」を企画した。

ボランティアを募り、小学校の登校時刻に合わせて、計3校で実施した。



#### 【取組3】(A中学校)

第1学年において、「生徒指導の実践上の視点」を意識した研究授業を行った。

研究授業では、特に「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」を意識し、構成的グループエンカウンター「宝探し」の活動を行った。

研究授業後の協議会では、教職員が「生徒指導の実践上の視点」を踏まえて日常の授業を実践する意識を高めた。

#### 【取組4】(A中学校)

独自に資料を作成し、不登校対応巡回教員が効果的に不登校の支援ができるよう、その役割等について理解を深める研修を実施した。

また、東京都教育委員会が作成した「児童・生徒を支援するためのガイドブック」の研修キットを活用した研修を実施した。短時間で効果的に教職員が不登校支援について理解を深められる機会となった。



## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（B中学校）

週1回、支援会議を実施している。  
週ごとに、「第1学年」、「第2学年」、  
「第3学年」、「全学年」に分けて、ロー  
テーションで必要な支援について検討し  
ている。毎回、1学年にしぼることで、  
個別に手厚い協議が行われている。

#### アウトリーチによる支援（A中学校）

不登校対応巡回教員が巡回日に中心  
となってSC及びSSWとアウトリー  
チ支援の様子について情報共有してい  
る。

さらに、次回までのアウトリーチ支援  
について担当等を明確にしている。

#### 校内別室における支援（A中学校）

校内別室において、教員も積極的に支援を行って  
いる。

美術科及び技術科の教員は、空き時間を活用して、  
校内別室を利用する生徒を対象に授業を実施してい  
る。校内別室に登校している全学年の生徒を特別教  
室に集め、該当学年で指導している課題に取り組み  
るようにしている。成績についても、積極的に反映  
している。



#### デジタル機器を活用した支援（A中学校）

毎日、午前11時に校内別室と自宅を  
つなぐオンライン学活を実施している。

参加する生徒がいない場合でも、必ず  
配信することで、不登校生徒がいつでも  
学校とつながることができるという安心  
感をもてるように工夫している。

#### 関係機関との連携（C中学校）

不登校対応巡回教員は、月1回、教育  
委員会や教育支援センターとオンライ  
ン連絡会を実施している。

また、教育支援センター及びフリー  
スクール、高等学校を訪問し、生徒の様  
子や進路に関する情報共有している。

## 成 果

小平市内の全中学校に校内別室を設置する  
ことができた。校内に、不登校生徒の居場所が  
できたことで、教職員の不登校支援に関する  
意識が更に高まった。

## 課 題

校内別室への登校から教室復帰  
する生徒が見られている。校内別  
室の利用生徒を更に増やし、校内  
別室での支援を定着させたい。